



昨今、地球環境問題がメディアの話題にのぼらない日はない。地球環境のために何かをしなければならないという市民の関心が急速に高まっており、CO₂の排出量抑制に関連した「チーム-6%」というキャッチフレーズをはじめ、カーボンオフセットや排出権取引という枠組みの議論やカーボンニュートラルを目指す具体的な取り組みなど、具体的な温暖化対策への市民参加が進められようとしている。

この国民的な動きのなかで、CO₂吸収源としての期待などから、市民参加による植樹運動が盛んになってきた。企業など民間団体、あるいは自治体が主催する植樹祭が空前の件数で実施されている。一方で、実際には植えた苗木はその後どうなっていくのか、苗木が首尾よく活着し生長したとして、それが地球環境にどの程度まで貢献するのか、そして市民あるいは地域環境はどのような恩恵を受けるのかということについての評価は不可欠である。そしてそのような考えに立って、どこにどのような植樹を行なうのがより効果的であるかという、植樹活動の方向性を改めて検討することが必要ではないだろうか。

このシンポジウムでは、地域固有の自然を再生することを目指してきた特定非営利活動法人 森林再生支援センターのこれまでの姿勢と取り組みを紹介し、民間団体や自治体などで植樹運動を行っている各方面の方々を交えた円卓会議で議論を行うことによって、これから必要な植樹の思想と技術を実践的に吟味するとともに、市民や企業市民はどのように考えてどのように行動したらよいのかを考えていきたい。

シンポジウム

かしこい植樹・かしこい市民

2008年7月27日(日) 13:30-16:30

キャンパスプラザ京都 ホール

参加費無料(事前申込み不要)

基調講演「市民参加型植樹の考え方と技術」

高田研一(森林再生支援センター常務理事)

円卓会議

<討論者>

上村邦雄(近畿中国森林管理局箕面森林環境保全ふれあいセンター/森林インストラクター)

柴田昌三(京都大学フィールド科学教育研究センター/森林再生支援センター専門委員)

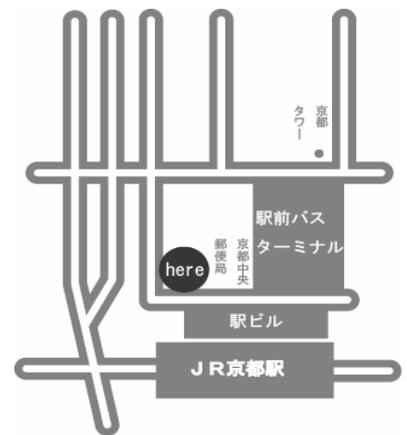
今村彰生(京都学園大学 バイオ環境学部/森林再生支援センター理事)

京都府モデルフォレスト協会関係者、植樹を行う自然保護団体

高田研一、その他会場の皆さま

<司会進行>

下村泰史(京都造形芸術大学/森林再生支援センター理事)



主催・お問い合わせ：特定非営利活動法人 森林再生支援センター

E-mail info@crrn.net

TEL/FAX 075-432-0026

URL <http://www.crrn.net>